

平成24年7月9日

報道機関各位

公益財団法人東北活性化研究センター  
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成24年6月東北分  
(新潟を含む東北7県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成24年6月東北分(新潟を含む東北7県)」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

【基調判断】

●今月の基調判断…東北地域の景気は「やや弱含んでいる」 (下方修正)

【調査結果のポイント】

(1) キーワード

- ・プラスのキーワード  
…エコカー（現状）
- ・マイナスのキーワード  
…低価格志向・買い控え（現状、先行き）、競合・競争（現状、先行き）  
天候（現状）、消費税増税（先行き）、エコカー（先行き）、円高（先行き）

(2) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

- ・現状判断DI「45.3」（▲2.5）は、3か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。
- ・家計動向は、震災特需が一巡するなか、エコカー補助金終了前の駆け込み需要のほか、旅行・レジャーに持ち直しの動きがみられる。しかし、不安定な天候から季節商材の動きは鈍く、買い控えや低価格志向を背景とした価格競争に変化はみられない。DIは「42.7」（▲4.3）と3か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。
- ・企業動向は、円高傾向から製造業で受注・輸出環境に厳しさがうかがえるものの、復興関連の需要は、公共事業や除染業務の本格化による建設関連や住宅着工等で動きがみられる。DIは「48.8」（+1.9）と3か月ぶりに前月を上回ったものの、景気判断の基準となる50を3か月連続で下回った。
- ・雇用動向は、パートやアルバイトなど臨時雇用や非正規雇用が主体である状況は変わらないものの、求人動向は一部地域を除き堅調で、求人倍率も上昇傾向にある。DIは「55.7」（+1.2）と4か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を12か月連続で上回った。

### (3) 先行き判断（3か月先の見通し、方向性）

- ・先行き判断DI「45.8」（▲3.6）は、2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。
- ・家計動向は、買い控え、低価格志向を背景とした価格競争は続き、エコカー補助金終了後の反動減が見込まれる。また、消費税増税問題等による先行き不透明感から消費マインドへの影響が懸念されている。DIは「43.8」（▲5.5）と2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を26か月連続で下回った。
- ・企業動向は、円高により輸出環境は厳しい状況が続き、消費税増税問題による市場の冷え込みも懸念されるが、建設や住宅着工等では引き続き復興関連の需要が見込まれる。DIは「49.4」（+0.6）と2か月ぶりに前月を上回ったもののほぼ横ばいで、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。
- ・雇用動向は、求人動向は一部に陰りが見え始めてきているものの、底堅さがうかがえる。DIは「52.3」（+1.2）と3か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を14か月連続で上回った。

以上

#### <添付資料>

- 調査結果の概要

#### <お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター（担当：木村）

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL : 022-222-3394 FAX : 022-222-3395

## 【調査結果の概要】

### 1. 今月の基調判断

景気ウォッチャーの判断によれば、東北地域の景気は、やや弱含んでいるとのことである。

### 2. 今月のDI※

#### (1) 現状判断（方向性）DI

3か月前との比較である現状判断DIは、「45.3」（▲2.5）と3か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。

	23年								24年					
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
東北現状	35.7	52.8	59.5	49.9	47.8	50.4	49.8	49.6	47.3	47.2	53.6	51.2	47.8	45.3
家計動向関連	36.6	52.3	59.6	46.6	44.4	48.9	48.4	46.7	43.9	43.0	52.3	50.2	47.0	42.7
企業動向関連	36.5	59.9	57.5	52.5	52.6	50.0	50.6	51.3	50.0	51.2	51.3	47.5	46.9	48.8
雇用関連(参考)	28.6	42.9	63.1	66.7	60.7	60.7	57.1	65.5	64.3	66.7	66.7	64.8	54.5	55.7

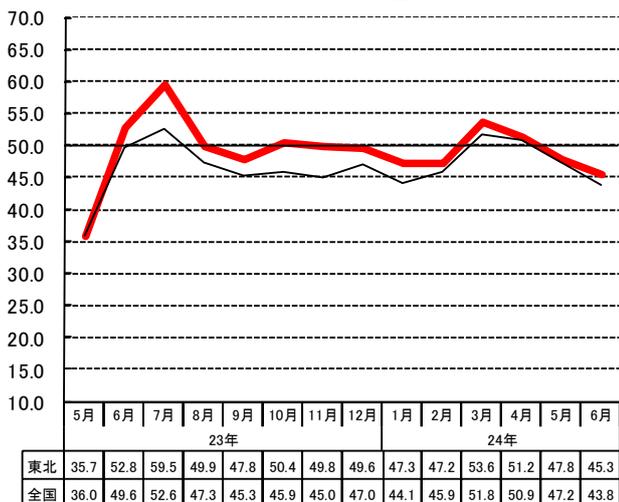
#### (2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、「45.8」（▲3.6）と2か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を2か月連続で下回った。

	23年								24年					
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
東北先行き	45.4	49.2	51.0	48.6	46.7	49.4	46.6	47.2	50.9	50.4	49.1	51.1	49.4	45.8
家計動向関連	43.5	47.1	47.4	45.4	45.3	49.6	45.7	44.3	48.4	48.2	46.9	49.5	49.3	43.8
企業動向関連	47.3	53.3	56.3	54.4	49.3	45.6	46.3	51.3	54.3	54.9	51.3	55.6	48.8	49.4
雇用関連(参考)	54.8	56.0	64.3	59.5	51.2	54.8	53.6	58.3	60.7	56.0	59.5	53.4	51.1	52.3

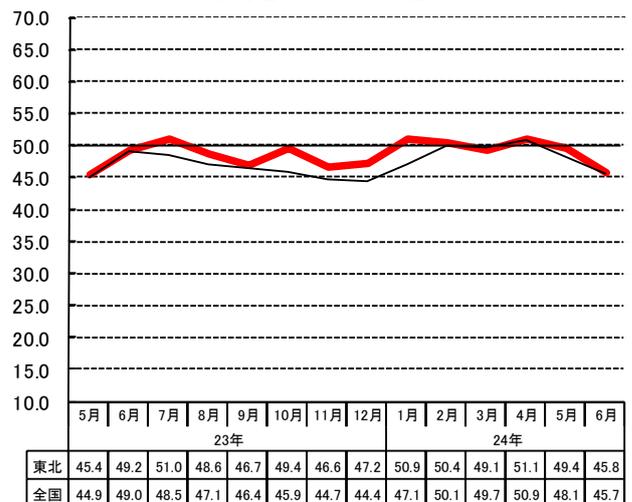
※DI（Diffusion Index）について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。

現状判断DIの推移



— 東北 — 全国

先行き判断DIの推移



— 東北 — 全国

### 3. 調査の概要

調査期間 平成24年6月25日～30日

回答者数 204/210名、回答率97.1%（全国1,861/2,060名、90.8%）

#### 4. 特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

##### （1）現状判断理由

###### ○「良くなっている」

（乗用車販売店）…来客数及び販売数は前年比 110%程度となっている。前年が震災特需の只中にあったことを考慮すると状況はかなり良い。

###### ○「やや良くなっている」

（観光型ホテル）…今月は前年比約 30%増となっている。地元客と復興支援の客が半々である。主に建設関係と公的機関、団体で、特に1泊可能な関東圏からの客が多くなっている。

（テーマパーク）…復興支援のツアー団体客が多い。復興のためにということで、買上点数も増えている。

（住宅販売会社）…不動産の動きが良く、大手、中堅ロードサイド店舗の進出予定が多い。

（建設業）…本格除染が始まり、量的にも受注高が倍増している。技術者不足、労務者不足、宿舍不足等課題は多いが上向きになっている。

（人材派遣会社）…企業の求人ニーズは活発で、求人にあふれている。残念ながらまだ求職者側が反応しきれていない様子もあるが、概ね顔合わせの機会が増え、採用意欲が高い。

（職業安定所）…建設業においては復興需要もあり、仕事が順調に増加している。また、製造業においても一時的とは思われるが、業務が増加傾向にある。ただし、求人は臨時的なものが多い。

###### ○「変わらない」

（スポーツ用品店）…先日バーゲンを実施したが、予想を大きく下回っている。市価の半額以下での販売でも客足が伸びない。

（百貨店）…天候不順により、クールビズ関連のファッション商材の伸びが予想より鈍化している。店の仕掛けやイベント等できっかけ作りをすると、来客数も増え、消費に結び付いているので、消費意欲はあるようである。

（スーパー）…1品単価、客単価共に下がっている。買物は慎重になってきており、財布のひもが固いという状況である。

（家電量販店）…家電業界は、前年と比べると震災後の復興需要等はみえるが、それでも夏物家電といわれるエアコン、扇風機については前年より需要が少ないようである。前年のエアコン、扇風機の販売量は震災後、販売量が伸びたが、このところ例年並みに戻っている。

（酒類専門店）…飲食店の厳しい状況は相変わらず続き、販売量がなかなか動かない。夏季にかけての新商品の営業を実施しても、今年は反応が特に薄い。販売量を下げないように持続していくのがやっつとである。

（都市型ホテル）…一般宴会、宿泊部門はほぼ予算通り推移しているが、各レストランの客足が落ちている。特に日曜祭日は毎回待ちが出るほどだったが、市内に全国チェーンのバイキング形式のレストランがオープンしてからは、客足が落ちる傾向が顕著になっている。

（旅行代理店）…個人旅行は3か月前から好調さが持続しているが、団体旅行の動きが鈍くなっている。復興関連の需要が一段落したとみている。

（通信会社）…来客数は減っているものの、新商品への期待感は結構あるので、そこそこ頑張ることができている。景気そのものは悪くない。

（遊園地）…梅雨入りが早く、週末の天候も芳しくなかったが、学校、団体の回復も比較的順調である。震災前に比べ90%近い水準となる見込である。

（食料品製造業）…震災特需が無くなった影響もあり、春以降、前年比で業界全体の売上がマイナスの状況が続いている。

（土石製品製造販売）…震災復興の道路工事や、ホテルなどの改装工事と発注工事が追いつかない状態

である。しかしながら、景気回復としての工事ではない。

(電気機械器具製造業) …復興に関する補助金を得て、工場増設などの動きがみられるが、受注内容は厳しいコストダウンが前提となっており、忙しいが景気が良いのか悪いのか判断に戸惑うケースが多い。

(企画業) …住宅会社の震災対応が軌道に乗っており、新築を急ぐ被災者も多い。しかし、地場工務店は、いかんせん供給力に限度がある。そういった意味で需要に追いつかない状況は変わっていない。

(人材派遣会社) …3か月前と特に変わらない。3か月くらい前から、今の大学4年生、来春卒業の新卒採用についての問い合わせが1週間に1件くらいずつ入ってきている。そんな状況が続いている。

(職業安定所) …新規求人数は増加傾向、新規求職者は事業主都合の離職者も少なく減少傾向が続いており、有効求人倍率も0.83と高水準となっている。

## ○「やや悪くなっている」

(医薬品販売店) …3か月前はここ半年で最も良かったせいもあるが、3月と比べ、まとめ買いをする客が少なくなっている。来客数はあまり変わらないものの、客単価が落ち、全体の売上は落ちてきている。

(百貨店) …比較的低温の日が多く、夏に向けてクールビズ、浴衣など季節商材の出足が鈍い。また、夏のセール開催時期の後ろ倒しが消費者に広まり、買い控えが前年より強く出ている。お中元は前年の震災特需的な動きはなく、前々年の動きに戻っている。

(スーパー) …競合店のディスカウント攻勢が激しくなり、前年との比較でも来客数の伸び率より売上の伸び率が低下傾向にある。客の買上点数は減っており、チラシ品以外の買い控え傾向が続いている。

(コンビニ) …来客数は前年比97%、客単価は前年比98%である。前年は復興需要があったが、今年は落ち着いてきている。そのなかでも比較的好調なのは、ファーストフードやベーカリーである。経済的にも厳しいのか、弁当も400円前後のものが売れている。今まで比較的好調だった高齢者の買物も、客単価が減っている。

(衣料品専門店) …朝晩、暖房を必要とする日があるほどなかなか暑くならず、夏物の動きが悪い。来客数も天気によって左右されているようである。

(ショッピングセンター) …5月までは売上高が前年比100%を超過していたにもかかわらず、6月は同98%と落ち込みを見せている。これは、気温の変化が激しく衣料品の夏物定価品の動きが鈍いことと、ファミリー客の減少に伴うゲームセンター及びシネマの客数減少が大きな要因である。

(一般機械器具製造業) …自動車部品については、為替相場が再び円高に振れ、輸出環境が悪化している。

(職業安定所) …有効求人倍率は2か月続けて前月を下回っている。求人数は変わらないが、求職者数が増加している。

## ○「悪くなっている」

(スーパー) …大手流通を始め、チラシにおける売価の下落に歯止めがかからない。そのようなデフレの状況が続いている。

(衣料品専門店) …震災特需が一巡した5月の中旬以降、厳しい状況が続いている。特に前年盛り上がった礼服やクールビズ需要のワイシャツや肌着関係といったものが、今年は厳しく前々年並みに戻っている。したがって、これまで復興特需で上がっていた景気が平時に戻りつつある。

(一般レストラン) …今月はこれまでにないほど暇である。客が1人も来ない日なども複数あり、大変厳しい状況が続いている。

(飲食料品卸売業) …3月ごろから特に受注量が減っている。また、納入価格もここしばらく、販売するたびに安くなっている。

## (2) 先行き判断理由

### ○「やや良くなる」

- (スーパー) …景気に一番影響を与えるのは天候である。今年は飲料などの一部商品の供給不足もないことから、前年同様の猛暑になれば、売上は作れるとみている。
- (衣料品専門店) …天候不安定で夏物商材の売行きに勢いがついてきていないなかでも、比較的高単価の商品は動いており、中期予報どおり、7月以降気候が安定してくれば、夏物商材のニーズが高まってくるのが予想できる。
- (観光名所) …頼みの綱のさくらんぼの発育状態が大変順調で、前年よりも販売量が増えることが見込まれるため、若干良くなるとみている。
- (電気機械器具製造業) …3次補正の補助金も動き出し、3か月先までの受注は見えているところが多いので当面はやや良くなるとみている。ただし、その先については不透明なところがほとんどである。
- (建設業) …資機材や労賃の高騰、人員不足等課題は多いものの、1～2年は規模、量からもプラスに働くとみている。しかし、東北内で被災3県と他3県に量的な格差が生じており懸念される。
- (広告業協会) …広告業界の中でもマスコミ媒体関係は前々年の水準以上のところまで戻ってきており、特に遅れていた新聞広告が回復してきている。交通広告はなかなか回復が遅い。そういったところから景気は徐々にではあるが回復するものとみている。
- (人材派遣会社) …相変わらず中途採用の求人数が多く、現在はなかなか採用しきれない状況が生まれている。その絡みで採用継続の問い合わせが引き続き入ってきているということで、企業の求人意欲は衰えていない。

### ○「変わらない」

- (寝具販売店) …仮設住宅に住む人が多い状況が続く限り、客の買い控えは続く。
- (百貨店) …夏の大きな商戦となるクリアランスセールは全体的に遅れてのスタートではあるが、セール自体のパワーも低下していることから、購入時期の分散化は起こるものの、結果的に大きな変動はないと判断している。食料品及びリビング商品は前年より震災特需は減少していくが、その減少分を引き続き堅調な高額商品がカバーしていくとみている。
- (スーパー) …チラシ特売等で目玉価格を出しても、商品が安いから沢山買うということもなく、必要な分だけ買うという志向は変わらないことが予想され、販売点数が伸びるとは考えられない。
- (自動車整備品店) …そろそろ初期のエコカー減税対象車の車検期に入るが、ディーラーの補修車検の抱え込みが厳しく、一般の認証工場への入庫は厳しい。たとえ入ったとしてもそれにかかる初回の車検補修費用はとて少なくて、利益は薄利であると考えられる。
- (靴専門店) …震災特需のあった前年並みの売上確保が難しい。土日の集客が落ち続けている。
- (観光型旅館) …客は相変わらず週末や連休に集中し、平日は直前まで客の動きがつかめない状況である。また、平日の集客は非常に悪い。状況としては低調なままの推移が続いている。
- (都市型ホテル) …学会、大会、イベントに伴う宿泊予約は前年に比べ満室日が多いが、婚礼、宴会等の主力部門に目立った動きはない。
- (遊園地) …3か月予報では平年並みの夏になるとのことであり、また、夏のイベントにも力を入れることから、徐々に震災前に近づく見通しである。
- (電気機械器具製造業) …欧州の信用不安の影響もあり、円高が継続すると予想される。そうになると、輸出割合の高い当社は、厳しい状況が続く。
- (飲食料品卸売業) …今夏の東北地方は平年並みの暑さとのことなので、ビールや清酒、焼酎のいずれもバランスの良い出荷が見込まれ、小売店利益の確保に効果が期待される。
- (企画業) …住宅会社の震災対応が軌道に乗っており、新築を急ぐ被災者も多い。しかし、地場工務店は、いかんせん供給力に限度がある。そういった意味で需要に追い付かない状況は今後も変わらない。

(金属工業協同組合) …これといって受注環境に大きな変化は見られない。低飛行が続いており、良い話も聞かない。

(職業安定所) …新規求人数は増えているが非正規雇用の求人が多く、正社員求人の割合は低下している。また、求人の増加傾向は鈍化しているため、今後更に良くなるとは考えにくい。

(職業安定所) …長引く円高や欧州の信用不安等が雇用に及ぼす影響が懸念され、厳しい状況が続くことが予想される。

### ○「やや悪くなる」

(医薬品販売店) …客は生活必需品のみの購入に抑えている様子が見られる。客と話をしても、先行きが見通せず将来への不安感が強い様子で、余裕がなく不安感や不満感を口にする人も多い。

(コンビニ) …前年は梅雨明けが平年より早く、猛暑であったため、より一層売上の不利差異が拡大すると予測できる。

(衣料品専門店) …例年よりサマーバーゲンを遅らせているので、どのような結果になるのか不安である。また、価格が安くなっても、必要なもの以外は買わない傾向が続いているので、販売量の減少を予測している。

(酒類専門店) …仕入原価の上昇や米の価格の高騰等、今後のマイナス要因や不安材料が多く、様々な対応を余儀なくされる可能性が高いため、売上を維持できたとしても減益の可能性が高い。

(観光型旅館) …消費税増税は先の話だろうが、増税や節電といった節約イメージが広がることにより消費を控える方向にならないか、心理的な問題で買い控えが発生するのではないかと心配である。

(一般機械器具製造業) …為替相場が動かない限り、厳しい輸出環境は続く。それに加えて、ASEAN諸国の急激な需要の落ち込みの影響を受けることを懸念している。

(人材派遣会社) …求人を出している社数は現状安定しているが、地場企業の求人計画は減少気味で、広告の反響が厳しい県外から進出してきたコールセンター等のリピート掲載でカバーしている状況である。

### ○「悪くなる」

(スーパー) …近隣の市に大手流通のスーパーが出店したことにより、同市内にある同業店はその余波が懸念される。

(乗用車販売店) …エコカー補助金に伴う駆け込み需要はまさしく先食い需要である。補助金も8月中には終了予想で、その後の反動減は前年比でいえば20~30%が予想されており、深刻な問題となりそうである。

(高級レストラン) …政治の混乱に加え、特に当地の場合は復興以外に良くなるような材料が無いとため、相当悪い時期が続くのではないかとみている。

(輸送業) …物量の大幅な減少が見込まれており、いつ回復傾向になるのか現時点では予想がつかない。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上